

中央パッケージング工業

生地端材再生の紙製資材

中央パッケージング工業（大阪府八尾市、菅野充基社長）は、生地の端材を再生した紙製資材の取り扱いを始めた。脱プラスチックなどサステイナビリティ（持続可能性）への社会的関心が高まりつつあるなか、リサイクルを基本に環境配慮型資材の提案に力を入れる。

同社はクラボウのアップサイクルプロジェクト「ループラス」に賛同してパートナー企業となっている。紙製資材は、このプロジェクトがリサイクルした紙を使い、靴下やTシャツ、



「ループラス」（クラボウ）がリサイクルした紙を使い、包装袋などに加工する

タオルなどの包装袋に加工する。ほか、タグなどにも対応する。綿の端材を使うため、ナチュラ

ルな風合いと一点ごとに異なる表情が特徴。現在は国内での小ロット生産だが、将来的には海外での量産化によるアパレル、小売業への供給も視野に入れる。

パッケージ類とともにプラスチックハンガーやフックなどの資材を扱う同社は、「脱プラの流れが資材全体の商量に影響しかねないが、新たな商機」と位置づけている。ポリプロピレン（PP）やポリスチレン（PS）に代わる再生PET素材のハンガー、CO₂（二酸化炭素）排出を抑制するバイオプラスチック（ポリエチレン）混合の包材やハンガーなども開発中で、環境配慮型資材の提案を充実する。

スマートファクトリー 計画や新素材など

クラボウグループ繊維展

クラボウは28、29日に東京・北青山のテピアエキシビジョンホールでクラボウグループ繊維展を開く。「ヒューマン・フレンドリー発想」をテーマに人、社会、地球にやさしい繊維製品とライフスタイルを提案する。

研究開発拠点のテキスタイルイノベーションセンターで取り組んでいるスマートファクトリー計画や、環境に配慮した作り手の取り組みおよび素材を紹介する。天然原料を改質した機能性次世代素材「ネイテック」をはじめ各種戦略素材も披露。クラボウインターナショナルのウォーキングウェア企画「パワーウォーキング」も紹介する。